

一般社団法人人文地理学会 2016 年（2015 年度）定時社員総会（会員総会）

2016 年 11 月 12 日 16 時 30 分～17 時 45 分 於：京都大学吉田キャンパス 吉田南 4 号館 4 共 11

- <1> 開会宣言（石川義孝会長）
- <2> 議長選任（秋山道雄常任理事）
- <3> 代議員選挙の結果報告（秋山道雄常任理事） <別紙 1>
- <4> 定足数の確認、議事録の署名人 2 名（出席代議員から）の選出（秋山道雄常任理事）

-----

<5> 議事

**報告事項**

**【I. 2015 年度 事業報告】**

**1. 庶務委員会**（秋山道雄常任理事）

**① 会員の動向**（2016 年 9 月 30 日現在）

年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	(2015.10~2016.9)
会員	1468	1410	1394	1329	1323	1231	1399	1245 (国内 1235、海外 10) (団体会員 146)
(学生)	—	—	(63)	(84)	(91)	(105)	(115)	(135)
入会	48	39	44	49	27	39	46	42
(学生)	—	—	(21)	(33)	(19)	(27)	(17)	(31)
退会	54	57	60	57	33	46	40	43 (逝去 4)
(学生)	—	—	—	—	—	—	—	—
資格喪失	—	40	—	57	—	44	—	15

\*資格喪失は隔年（名簿発行年）

**② 交換・寄贈雑誌**（2016 年 9 月 30 日現在）

国内交換雑誌 42 誌 海外交換雑誌 10 誌

**③ 2015 年度常任理事会・社員総会・理事会の開催**

常任理事会（定例 5 回）

社員総会（1 回）

理事会 5 回（12 月 5 日、4 月 9 日、7 月 9 日、9 月 24 日、10 月 15 日）

**④ 2016 年度人文地理学会常任委員（任期：2016 年 11 月～2017 年 11 月）の委嘱**

<別紙 2>

**⑤ 地理学関係の雑誌の登録**

理事会での話題提供に基づいて、トムソンロイター社による登録状況の紹介や、それに関する意見交換が行われた。

## 2. 会計委員会 (三木理史常任理事)

### ①会費納入状況 (2016年11月10日現在)

会員数(個人) 1,227名(内 海外会員10名)、団体会員 146  
68巻完納; 998名(納入率81.3%)、67巻まで(1年未納); 153名(内、住所不明1)  
66巻まで(2年未納); 40名(内、住所不明4)

### ②部会の会計報告 (2016年9月末時点)

研究部会名	予算(円)	支出(円)	残高(円)
歴史地理	80,000	68,246	11,754
地理思想	80,000	53,200	26,800
都市圏	80,000	19,300	60,700
地理教育	80,000	76,612	3,388
政治地理	80,000	23,540	56,460

### ③補助金関係

国際情報発信強化への応募は、今年度も編集体制の大規模な変更鑑みて見送ることになった。

### ④永年会費 29名 (2016年10月1日現在)

### ⑤国際地理オリンピックへの寄附

学会としての寄付金額にふさわしい10万円/年を寄付することになった。

### ⑥若手研究者国際会議派遣助成

2013年京都国際地理学会議組織委員会からの寄附金を利用し、若手会員のIGU関連の国際会議参加に対し、2名に対し各々10万円と20万円を助成した。

## 3. 編集委員会 (野間晴雄常任理事)

### ①雑誌編集状況

〈別紙3〉

### ②『人文地理』季刊化の実施

2015年度の第68巻1号(2016年刊行)からの季刊化(年4回発行)に移行した。印刷業者は入札によって、中西印刷工業株式会社に決定した。紙面の内容、デザイン、投稿規程・執筆要領の検討、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が構築したJ-stage(科学技術情報発信・流通総合システム)搭載への課題を検討、2016年10月末現在で3号を刊行した。総ページ数は現状をできるかぎり維持する方向で、より開かれた親しみある誌面、国際化への対応(DOI(Digital Object Identifier)の付与、などをめざすこととする。すでに実行している主要な変更点は以下である。

1) 論文冒頭に和文と英文の摘要とそれぞれのキーワードの付与。



- 2) 注と文献を完全に分離し、注は脚注、文献は論文末尾に掲載する。
- 3) 種別は、論文、研究ノート、展望、フォーカス、書評の5種とし、各巻3号には年間学界展望（依頼原稿）を掲載する。その他（特集、英文特集）も今後考えていきたい。
- 4) 著者への連絡先として、e-mail等を論文の冒頭頁の脚注に記載を必須とした。
- 5) 論文の最大頁を増やした。論説22頁、研究ノート20頁、展望22頁、フォーカス20頁。その一方で、投稿時にこれを超えと思われる論文は審査対象外とした（著者負担による超過頁負担は、編集途上で生じたものに限る）。なお、書評は刷り上がり2頁のみとし、人文地理学に裨益する和書、特殊な報告書等も可とした。
- 6) 実費でのカラー図版掲載を可とした。
- 7) 投稿締切を3週間前の火曜日（25日前）とした。
- 8) 編集委員会は従来通り年間6回とし、論文の校正・編集委員によるチェックはできるかぎり中西印刷と直接メールやクラウド活用によって、事務局での作業を減らす努力をした。
- 9) 季刊化によって読者には会告等が実施日の直前あるいは事後になることもあり得るが、メーリングリストやホームページの充実でそのタイムラグを補うこととした。
- 10) 今後、第69巻1号からのDOIの付与、刊行1年後のオープンアクセスを目標におき諸作業を遂行していきたい。

### ③その他

- 1) 年間学界展望の歴史地理学の分野を「近世以前」と「近・現代」に変更した。
- 2) 今後、外部査読者の範囲を拡大する方向で検討中である。

## 4. 集会委員会（藤田裕嗣常任理事）

### ①大会

- 1) 2015年人文地理学会大会  
大阪大学豊中キャンパス：2015年11月14日（土）・15日（日）  
特別研究発表4件（2会場）、部会アワー（研究部会）；一般研究発表82件（一般発表56件、セッション4組15件、ポスター発表11件）、  
大会参加者366名、懇親会参加者129名（うち学生14）
- 2) 2016年人文地理学会大会  
京都大学吉田キャンパス吉田南構内：2016年11月11日（金）・12日（土）・13日（日）  
エクスカーション1件；特別研究発表4件（2会場）、部会アワー（研究部会）；一般研究発表72件（一般発表54件、セッション2組7件、ポスター発表11件）

### ②例会

- 第284回 2016年4月21日（土）同志社大学、テーマ：「東アジアをフィールドにした海外調査と地理学」発表2件・コメント2件。参加者32名。

第 285 回（特別例会） 2016 年 6 月 25 日（土） ミニ巡検「水戸の魅力」20 名。古地図展「高萩市が生んだ江戸自体の地理・地図学者」当日参加者 508 名。シンポ「地域の魅力とはなにかー人文地理学からのアプローチ」茨城大学で発表 4 件・参加者 114 名。懇親会 47 名。26 日 エクスカーション：「茨城県北部の魅力を探る」参加者 35 名。

### ③研究部会

1) 研究部会の設立（更新）：以下、[a]～[e]を 2015 年 9/26 理事会で決定し、発足。

2) [a]歴史地理研究部会

[第 141 回] 2015 年 11 月 14 日（土）大会部会アワー、発表 1 件・参加者 22 名

[第 142 回] 2016 年 5 月 7 日（土）立命館大学歴史都市防災研究所、テーマ：「近代の水害と開発ー京都南部と神戸の事例からー」発表 2 件とコメント 1 件・参加者 36 名

[第 143 回] 2016 年 7 月 2 日（土）京都アスニー、テーマ：「市民のための歴史地理」発表 2 件、参加者 79 名。

[第 144 回] 2016 年 9 月 10 日（土）京都大学、テーマ：「近代京都の歴史地理ー卒論発表会をかねてー」発表 2+1 件、参加者 23 名。

[第 145 回] 2016 年 10 月 22 日（土）（予定）関西大学、テーマ：「伝承の歴史地理」発表 2 件。

[b]地理思想研究部会

[第 121 回] 2015 年 11 月 14 日（土）大会部会アワー、発表 1 件・参加者 13 名

[第 122 回] 2016 年 7 月 9 日（土）京都私学会館（第 18 回政治地理研究部会と合同）、テーマ：「『平和都市』と『原爆スラム』」、発表 1 件、コメント付き・参加者 20 名

[c]都市圏研究部会

[第 56 回] 2015 年 11 月 14 日（土）大会部会アワー、発表 1 件・参加者 25 名

[第 57 回] 2015 年 12 月 5 日（土）、経済地理学会関西支部・日本都市地理学研究グループと共催、テーマ：「企業のグローバリゼーションと地域振興」発表 2 件・参加者 33 名

[第 58 回] 2016 年 4 月 23 日（土）、大阪市立大学文化交流センター、テーマ：「小地域データからみた東京大都市圏の居住分化」、発表 2 件・参加者 18 名

[d]地理教育研究部会

[第 35 回] 2015 年 11 月 14 日（土）大会部会アワー、発表 2 件・参加者 24 名

[第 36 回] 2016 年 6 月 19 日（日）北船場付近の巡検と大阪商業大学で研究会。テーマ「高等学校地理歴史科必修科目設置に向けた展望」、発表 3 件・参加者 30 名

[第 37 回] 地理教育夏季研修会 2016 年 8 月 5 日（金）名古屋市内、午前中に港巡検、午後に研究会（発表 3 件、ワークショップ 1 件）参加者 28+25 名

[e]政治地理研究部会

[第 16 回] 2015 年 11 月 14 日（土）大会部会アワー、発表 1 件（コメント付き）・参加者 25 名

[第17回] 2016年6月18日(土) 新大阪丸ビル本館、テーマ:「文化の政治学は死んだのか」発表1件・参加者20名

[第18回] 2016年7月19日(日) (地理思想研究部会と共催) 上記を参照。

#### ④2017年の大会・特別例会について

2017年人文地理学会特別例会

2017年6月24日(土)・25日(日)に岡山大学で開催

2017年人文地理学会大会

2017年11月18日(土)・19日(日)に明治大学で開催

### 5. 企画委員会 (古賀慎二常任理事)

#### ①第16回人文地理学会 学会賞

〈別紙4〉

・学会賞候補者選考委員会委員を以下の通り委嘱した(2015年12月)。※印は委員長

[学術図書部門]

西原 純(静岡大学・留任)※

井村博宣(日本大学・留任)

中村周作(宮崎大学・新任)

宮町良広(大分大学・新任)

[学術図書部門奨励賞]

西原 純(静岡大学・留任)※

井村博宣(日本大学・留任)

中村周作(宮崎大学・新任)

宮町良広(大分大学・新任)

[一般図書部門]

西野寿章(高崎経済大学・留任)※

志村 喬(上越教育大学・新任)

根田克彦(奈良教育大学・新任)

山近久美子(防衛大学・新任)

[論文部門]

内田忠賢(奈良女子大学・留任)※

松井圭介(筑波大学・新任)

山田浩久(山形大学・留任)

吉田容子(奈良女子大学・新任)

・2016年3月22日に早稲田大学にて、学会賞候補者選考委員会を部門別に開催した。

各委員会では、9月下旬の答申までの委員会の進め方について意見交換がなされた。

・学会賞候補者選考委員会からの答申(2016年9月)

各部門の候補者選考委員会から受賞候補者について答申があった。受賞候補者および候補図書・論文は以下の通りである。なお、本答申については、2016年10月15日の第5回理事会で承認。

[学術図書部門]

受賞候補者: 大山修一会員

受賞候補図書: 『西アフリカ・サヘルの砂漠化に挑む—ごみ活用による緑化と飢餓克服、紛争予防—』昭和堂, 2015年。

[学術図書部門奨励賞]

受賞候補者: 林 紀代美会員

受賞候補図書：『魚食と日本人—水産と人・生活・地域のかかわり—』古今書院，2015年。

【一般図書部門】

受賞候補者：森川 洋会員

受賞候補図書：『「平成の大合併」研究』古今書院，2015年。

【論文部門】

受賞候補者：崎田誠志郎会員

受賞対象論文：「広域漁協下における漁場管理の構造と変容—和歌山東漁協を事例として—」『人文地理』第67巻第4号，283～305頁。

②地理学連携機構関連

・2016年3月20日に早稲田大学にて、第8回地理学連携機構・地理関連学会連合・人文・経済地理及び地域教育関連学会連携協議会合同総会が開催された。

科研費審査区分の変更や会員の高齢化について意見交換がなされた。

③若手研究者国際会議派遣助成

〈別紙5〉

・若手研究者国際会議派遣助成選考委員会委員を以下の通り委嘱した（2015年12月）。

※印は委員長

岡本耕平（名古屋大学・新任）※

松原 宏（東京大学・新任）

山崎孝史（大阪市立大学・新任）

・第1回助成の募集を2016年2月末日（当初の2015年12月末日締切を延長）で締め切り、電磁的方法により委員会を適宜開催し、意見交換がなされた。

・若手研究者国際会議派遣助成選考委員会からの答申（2016年3月）

選考委員会から助成採択者について答申があった。助成採択者および発表タイトル・研究集会名は以下の通りである（会員名簿掲載順）。なお、本答申については、2016年4月9日の第2回理事会で承認。

採択者：熊野貴文会員

発表タイトル：Detached Housing Development in the Osaka Metropolitan Area since the Late 1990s: Focusing on Its Built-up Areas

研究集会：The 33rd International Geographical Congress, Beijing, China, 21-25 August 2016

助成金：10万円

採択者：河本大地会員

発表タイトル：Sustainability in a Collaboration between Rural Areas and Universities: From a Viewpoint of ESD (Education for Sustainable Development)

研究集会：24th Colloquium of the IGU Commission on the Sustainability of Rural Systems, Liège, Belgium, 17-22 July 2016

助成金：20万円

- ・第2回助成の募集要項について、第1回の要項を一部修正したうえで決定し、昨年より早期に募集を開始した。なお、本決定については、2016年9月24日の第4回理事会で承認。

## 6. 広報委員会（古賀慎二常任理事）

### ① メーリングリストの開設

- ・会員間の研究・実務に関する情報提供、学会活動に関する広報サービスの拡充や、学会誌『人文地理』の季刊化に伴う会告の遅れを補うことを目的に、2016年4月より新たにメーリングリスト（以下、ML）を開設した（登録制）。2016年9月22日現在の登録者数は169である。本MLでは、MLの登録者を対象に、学会主催の大会・例会・研究部会などに関する情報や、その他の学会関連情報配信した（不定期配信）。

### ② 広報活動

- ・2015年大会（於：大阪大学）での学会賞表彰式の様子を初めて公式HPに掲載するなど、学会活動の情報を会員および社会に周知させることにつとめた。

【Ⅱ. 2016年度事業計画】（秋山道雄常任理事） <別紙6>

【Ⅲ. 2016年度収支予算】（三木理史常任理事） <別紙7>



## 審議事項

【Ⅰ. 2015 年度決算】 (三木理史常任理事) <別紙7>

【Ⅱ. 2016 年度—2017 年度役員の選任】 (秋山道雄常任理事) <別紙8>

---

<新会長・新常任理事登壇>

【Ⅲ. 2016 年度- 2017 年度常任理事の紹介】 (新会長)

庶務担当	秋山 道雄
会計担当	中谷 友樹
編集担当	香川 貴志
集会担当	吉田 容子
企画・広報担当	矢野 桂司

【Ⅳ. その他】

新会長 (代表理事) 挨拶

---

<6> 閉会宣言、議長解任 (秋山道雄常任理事)



一般社団法人人文地理学会 2016～2017年度 代議員 (2016年10月1日現在)

秋山 道雄 **	古賀 慎二	野間 晴雄 *
秋山 元秀	小島 泰雄 *	埴淵 知哉
浅野 敏久	小林 茂	原口 剛
阿部 和俊	駒木 伸比古	日野 正輝
阿部 康久	近藤 章夫	平井 松午
阿部 亮吾	近藤 暁夫	福本 拓
荒井 良雄	酒井 多加志	藤井 正
荒木 一視	作野 広和	藤巻 正己
荒又 美陽	島田 周平	前田 洋介
生田 真人	志村 喬	松田 隆典
池谷 和信	鈴木 厚志	三木 理史 *
石川 義孝 ***	関戸 明子	水内 俊雄
石丸 哲史	祖田 亮次 *	水野 一晴 *
岩動 志乃夫	高木 彰彦	水野 真彦
井田 仁康	高野 岳彦	宮町 良広
伊東 理 *	高橋 誠	村山 祐司
上杉 和央	高柳 長直	森本 泉
内田 忠賢 *	橋 セツ	矢ヶ崎 典隆
梅田 克樹	立見 淳哉	山神 達也
大城 直樹	田中 和子	山崎 孝史
大西 宏治	田和 正孝 *	山崎 健
大山 修一	土谷 敏治	山下 清海
岡橋 秀典	筒井 一伸	山下 潤
小田 宏信	堤 研二	山下 博樹
香川 雄一	堤 純	山村 亜希 *
影山 穂波	椿 真智子	山本 充
加藤 政洋	寺谷 亮司	横山 智
河原 典史	戸井田 克己	吉越 昭久
神田 孝治	戸所 隆	吉田 国光
北川 博史	長尾 謙吉	吉田 道代
金 料哲	中澤 高志	吉田 容子 **
熊谷 圭知	中西 僚太郎	吉水 裕也
呉羽 正昭	中村 周作	渡辺 理絵
河本 大地	野中 健一	

\* 理事

\*\* 常任理事

\*\*\* 代表理事

※2016年9月24日開催の理事会において、香川雄一選挙管理委員会委員長より報告され、承認。

2016年度人文地理学会常任委員  
(任期：2016年11月～2017年11月)

委員会の常任委員（\*は常任理事、\_は新常任委員）

庶務： \*秋山道雄 香川雄一 秦 洋二

会計： \*中谷友樹 網島 聖 麻生 将

編集： \*香川貴志 安藤哲郎 石崎研二 稲垣 稜 井上 学 神田孝治 米家泰作  
島津俊之 塚本礼仁 戸井田克己 花岡和聖 水野真彦 薬師寺浩之  
矢嶋 巖 山口 覚 山近博義

集会： \*吉田容子 河本大地 原口 剛 藤田和史 水野一晴

企画： \*矢野桂司 松井幸一 松永光平 吉田道代

広報： \*矢野桂司 駒木伸比古 村山 徹



2015年度 会務報告(編集委員会)

『人文地理』編集状況

	11.07.	01.09.	03.05.	05.14.	06.11.	07.09.	09.17.	合計	総計	2014	2013	2012	2011	2010
論説 新規	2	6	1	4	1	3	2	19	26	15	20	23	26	26
論説 再投稿	1	1	1	0	0	1	3	7						
展望 新規	2	0	1	1	0	0	1	5	8	4	8	7	6	1
展望 再投稿	0	0	1	1	0	0	1	3						
研究ノート新規	0	1	2	3	1	1	2	10	20	14	10	8	26	21
研究ノート再投稿	2	2	2	1	1	1	1	10						
フォーカス 新規	0	0	1	1	0	0	0	2	4	1	集計なし	集計なし	集計なし	集計なし
フォーカス 再投稿	0	0	0	0	0	1	1	2						
合計	7	10	9	11	3	7	11	58	34	38	38	43	58	48
論説 採択	2	0	2	0	0	1	1	6	26	5	5	5	7	7
論説 再投稿要請	1	2	0	3	1	3	2	12						
論説 返却	0	5	0	1	0	0	2	8	8	1	1	1	2	0
展望 採択	0	0	0	1	0	0	1	2						
展望 再投稿要請	1	0	1	1	0	0	1	4	8	4	4	4	3	1
展望 返却	1	0	1	0	0	0	0	2						
研究ノート 採択	0	2	1	1	1	1	0	6	20	2	2	2	8	7
研究ノート 再投稿要請	2	1	2	2	1	0	2	10						
研究ノート 返却	0	0	1	1	0	1	1	4	4	非集計	非集計	非集計	非集計	非集計
フォーカス 採択	0	0	1	0	0	0	1	2						
フォーカス 再投稿要請	0	0	0	1	0	1	0	2	4	非集計	非集計	非集計	非集計	非集計
フォーカス 返却	0	0	0	0	0	0	0	0						
合計	7	10	9	11	3	7	11	58	58	31	31	31	58	48

- ・英文特集の英文原稿はカウントせず。
- ・原稿種別変更における再投稿の場合は、当初種別では「返却」、再投稿時の種別では「新規」として計上した。
- ・編集委員会外部レフリー率:40.2% (昨年度:10.8、一昨年度:21%)★2016年11月5日の第7回編集委員会の結果は算入していない。

若干のコメント

	2015	2014	2013	2012	2011		2015	2014	2013	2012	2011
論説採択率	23%	20%	28%	28%	27%	論説返却率	31%	53%	28%	28%	50%
展望採択率	25%	25%	17%	17%	33%	展望返却率	25%	25%	17%	17%	17%
研究ノート採択率	30%	36%	29%	29%	31%	研究ノート返却率	20%	21%	29%	29%	27%
フォーカス採択率	50%	100%	非集計	非集計	非集計	フォーカス返却率	0%	0%	非集計	非集計	非集計
全体採択率	28%	29%	26%	26%	29%	全体返却率	24%	35%	26%	26%	36%

\*新規投稿と再投稿の数は、季刊化による様式変更が幸いしたのか復調気配にある。

- (1)一昨年度と昨年度に比べると新規投稿と再投稿はともに復調気配にある。
- (2)全体採択率は前年度とほぼ同等であり、返却率は一昨年の水準に戻し、投稿論文の水準が若干向上したといえる
- (3)仕上がりの粗い「論説」原稿を「研究ノート」にコンバートしても仕上がりの改善が緩慢な原稿が多く、それが「研究ノート」採択率の低下に寄与したと考えられる。
- (4)「編集委員会3週間前の火曜日(25日前)」が定着してきたこともあり、編集委員を除く役員に副査を依頼できるケースが増えた。直近では大半の論文において副査は編集委員ではない役員が務めている。

「人文地理」各号 発行状況

	総頁数	論説	展望	研究ノート	フォーカス	書評
67巻5号	106	1	0	2	0	2
67巻6号	82	4	0	0	0	2
68巻1号	148	2	0	1	2	2
68巻2号	124	1	1	2	0	6
68巻3号(予定)	125	1	1(学界展望)	1	0	4
合計	585	9	2	6	2	16
昨年度合計	568	12	3	6	1	13
一昨年度合計	602	14	2	3	2	0

英文  
7  
69  
25  
5  
\*英文算出させず  
小計 106

- \*68巻1号より本誌は隔月刊から季刊へ移行した。
- 68巻1号～3号の平均頁数は132頁。これに4を乗じると年間529頁に相当する。
- \*67巻6号の「論説」は、すべて英文特集号における英語論文である。
- 英文占有率:23%(昨年度:21%、一昨年度:27%)

2016年10月8日 常任理事会

2016年10月15日 理事会

(起案：企画委員会)

## 第16回(2016年)人文地理学会 学会賞 選考結果(選考委員会答申)

### ●学術図書部門

受賞候補者：大山修一会員

受賞候補図書：『西アフリカ・サヘルの砂漠化に挑む—ごみ活用による緑化と飢餓克服，紛争予防—』昭和堂，  
2015年。

### ●学術図書部門奨励賞

受賞候補者：林 紀代美会員

受賞候補図書：『魚食と日本人—水産と人・生活・地域のかかわり—』古今書院，2015年。

### ●一般図書部門

受賞候補者：森川 洋会員

受賞候補図書：『「平成の大合併」研究』古今書院，2015年。

### ●論文部門

受賞候補者：崎田誠志郎会員

受賞候補論文：広域漁協下における漁場管理の構造と変容—和歌山東漁協を事例として—。人文地理，67(4)，  
283-305。

以上



2016年9月23日

一般社団法人 人文地理学会  
会長 石川 義孝 様

第16回人文地理学会学会賞（学術図書部門）候補者選考委員会

委員長 西原 純  
委員 井村 博宣  
委員 中村 周作  
委員 宮町 良広

本委員会では、第16回人文地理学会学会賞（学術図書部門）受賞候補者として下記の会員に決定したので、選考理由を付して以下の通り答申する。

### 記

受賞候補者：大山修一会員

受賞候補図書：『西アフリカ・サヘルの砂漠化に挑む—ごみ活用による緑化と飢餓克服、紛争予防—』昭和堂、2015年。

選考理由：

本書は、砂漠化、飢餓、テロ、貧困、政治不安などさまざまな問題を抱えるサヘル地域・ニジェールを対象として、15年間にわたって、現地農村で参与観察を行って住民に寄り添い、住民を理解しようとする姿勢で、砂漠化に直面する農村社会を内側から検証した書物である。さらに本書は、調査村が典型例として抱えるサヘル地域の農村の現状、課題の解明だけに止まらず、現地の実情に即した現実的な砂漠化等の対策として、都市ゴミの活用による緑化を提唱し、実践した活動の記録でもある。

本書は三つの大きな主題からなる。一番目が、サヘル地域における砂漠化問題の背景と問題の所在を受けて地域の風土・民族について、調査対象村落での農耕民・牧畜民の暮らしと彼らの間の共生の関係性、村に居住する職能集団や都市への出稼ぎ、村におけるセーフティネットや人々の価値観などについての議論である。二番目が、調査村における村びとたちの砂漠化問題の対処法、著者による砂漠化への対処の実験・評価である。三番目が、実際に調査村で起こった紛争と著者の実験を踏まえての砂漠化問題の図式化と砂漠化への対応の可能性の議論である。

内外の既存研究に関するレビューも充実し、写真、図版も適切なものが豊富に掲載されており、世界的な地理的課題の理解を助けている。人類学的な村落調査の方法とともに、常に現象が起こっている空間的スケールが強く意識され、自然地理学研究からの知見も活かされ、植生調査や土壌分析、気象観測、測量、衛星写真の判読などの手法が駆使されて、地理学の強みが遺憾なく発揮されている。

このように本書は、砂漠化に苦しむサヘル地域の農村社会を内側から長期間、綿密に多面的に調査し、多くの新しい知見を発見した独創性の非常に高い著書である。また、多くの研究者は現場での問題の発見・分析・解明に止まるが、それを超えて都市ゴミの活用による緑化を実践して得た、都市のごみ問題の解決、荒廃地の緑化、牧畜民と農耕民の紛争の予防についての著者の議論は極めて明確でかつ説得力がある。現地住民との相互理解に努力する姿勢や、苦難が多い調査を継続する研究者としての使命感に感心させられる。よって、本書は学問的な独創性と社会的な有用性が非常に高い、特段に優れた人文地理学への貢献が顕著な学術書と評価できる。

以上のことから、本書は人文地理学会賞（学術図書部門）の授与にふさわしい優れた著作であり、著者をその候補者として推薦する。

2016年9月23日

一般社団法人 人文地理学会  
会長 石川 義孝 様

第16回人文地理学会学会賞（学術図書部門奨励賞）候補者選考委員会

委員長 西原 純  
委員 井村 博宣  
委員 中村 周作  
委員 宮町 良広

本委員会では、第16回人文地理学会学会賞（学術図書部門奨励賞）受賞候補者として下記の会員に決定したので、選考理由を付して以下の通り答申する。

### 記

受賞候補者：林 紀代美会員

受賞候補図書：『魚食と日本人—水産と人・生活・地域のかかわり—』古今書院，2015年。

選考理由：

本書は、魚食からみえる地域、魚食を支える活動と地域の役割、魚食にかかわる学びなど、魚食と日本・日本人にかかわる諸相を多面的にまとめた地理学書である。魚食は、人類共通の営みであるため、研究者だけでなく多くの人々に関心や実感をより強くもって接近していくことができる主題であり、たいへんユニークな書物である。

本書は三部から構成されている。第Ⅰ部では全国の水産物購入品目や沖縄県におけるサンマの普及過程を通してみた社会の特性、第Ⅱ部では二つの輸入水産物を対象にした海外水産物の商品化と国内産地の対応の特徴、第Ⅲ部ではこれまでの議論と各地の事例をもとに、生産から消費までにかかわりあう人々の学びの場の構築が議論されている。そして本書の最後では、水産資源と人々、地域、社会の役割・つながりの大切さと、これからの魚食の形を考える方向性が模索されている。

本書がこれまでの研究と違う点は、タイトルどおり「食べる」に力点がおかれていて、内容的に興味深く、類書のなさ、従来の経済地理学的、文化地理学的な研究とは一線を画した斬新な視点に立脚していることである。同時に、地理学が得意とする「地域の個性」「地域間の関連性」「地域の形成過程」についての視点、統計データ分析と徹底したフィールド調査という地理学的な強みが遺憾なく発揮されている。その中でも、サンマ・カペリンの普及過程の分析は、食文化が形成される過程を明白にしたものであり、独創的な学術的成果と高く評価できる。さらに本書「あとがき」によれば、本書は博士論文の一部成果を基礎にしつつも、新しい主題である「資源と人と地域、社会、環境とのかかわり」と「学び・伝達・働きかけ」の観点からの議論に加えて、学校教育や地域活動へも論考が展開されていて、挑戦的な書であるとともに文字通り総合的な学術書である。

本書は、上述の主題の斬新さと独創的な成果とともに、読者を惹きつける記述のわかりやすさと明解さがあり、研究者以外の読者も見据えた点で、学術書として社会への新しい貢献の形とみなすことができ、さらなる発展が期待できる。よって、本書は学術図書として独創性が高く斬新な着想と今後の展開の可能性を有しており、人文地理学への貢献が顕著であると評価できる。

以上のことから、本書は人文地理学会賞（学術図書部門奨励賞）の授与にふさわしい優れた著作であり、著者をその候補者として推薦する。



2016年9月2日

一般社団法人 人文地理学会  
会長 石川義孝 様

第16回人文地理学会学会賞(一般図書部門)候補者選考委員会

委員長 西野 寿章  
委員 志村 喬  
委員 根田 克彦  
委員 山近久美子

本委員会は、第16回人文地理学会学会賞(一般図書部門)受賞候補者として下記の会員に決定したので、選考理由を付して以下の通り答申する。

記

受賞候補者：森川 洋会員

受賞候補図書：『「平成の大合併」研究』古今書院, 2015年.

選考理由：

1999年から2010年までの間に進められた「平成の大合併」は、バブル経済の崩壊後の長期経済不況を要因とした国家財政の破綻を背景として推進された。合併によって地域社会のシステムが大きく変化することもあり、住民生活や経済活動に大きな変化を与える。森川氏は、平成の大合併を「住民や地方政治家の活動にとってだけでなく、地域の発展方向にも強く影響を与える大事件」と捉え、合併に至る「膨大な記録をできるだけ克明に記述しておくことは我が国の自治制度の将来を考える基礎資料として役立つ」と本書刊行の意義を述べている。森川氏は長らく中心地理論と都市システムの理論的研究と実証的な研究とを続けてきた。その研究において、現実の都市システムを中心地理論から評価し、国土の均衡ある発展のための行政の在り方を提言してきた。また、以前の成果であるが、理論と整合するようなドイツの市町村整備のあり方を日本に紹介した意義は大きい。本書は、平成の大合併を広域整備の観点から実証的分析し、そのメリットよりデメリットの方が大きいことを明らかにした。本書は、森川氏の理論とドイツの研究と、日本の現在の市町村合併による広域都市圏整備のあり方を検討した、森川氏の今までの膨大な研究の集大成ともいえよう。また、地理学が国土整備・都市計画に貢献できることを明示した良書であると考えられる。

2016年9月9日

一般社団法人 人文地理学会  
会長 石川義孝 様

## 第16回人文地理学会学会賞(論文部門)候補者選考委員会

委員長 内田 忠賢  
委員 松井 圭介  
委員 山田 浩久  
委員 吉田 容子

本委員会は、第16回人文地理学会学会賞(論文部門)受賞候補者として下記の会員に決定したので、  
選考理由を付して以下の通り答申する。

## 記

受賞候補者：崎田誠志郎会員

受賞候補論文：広域漁協下における漁場管理の構造と変容—和歌山東漁協を事例として—, 人文地理6  
7(4), 283-305.

選考理由：

本論文は、広域漁協下における地区の漁場管理の存立構造を解明し、今後の漁協や漁場管理のあり  
方に一石を投じる力作である。丹念な資料収集やフィールドワークに基づき、内部及び外部から多角  
的に考察した実証研究であることが、本論文に説得力を与えている。まず、地区の漁場管理にかかわ  
る主体と役割を明確にし、公的制度和地区の漁場管理の有機的な結びつきを検討し、地区の漁場管理  
構造の変容過程とその要因を論理実証的に追いかけた。漁協合併によって複雑化してきた漁場管理に  
着目し、その存立構造を解明しようとする著者の意図は明快であり、研究目的に対応した論文構成に  
よって漁場管理の重層構造が十分説明されている。空間軸とともに時間軸に沿った変化のプロセスを  
追いながら、共通点・相違点を詳細に明らかにした点も素晴らしい。調査内容はよく整理されており  
、図表等も分かりやすく工夫されている。

以上のように、選考委員会では、今回、論文賞の対象となる諸作品のうち、本論文をもっとも高く評  
価した。



2016年3月24日

一般社団法人 人文地理学会  
会長 石川義孝 様

人文地理学会若手研究者国際会議派遣助成選考委員会

委員長 岡本耕平

委員 松原 宏

委員 山崎孝史

## 第1回若手研究者国際会議派遣助成選考結果（答申）

提出された申請書および説明書に基づき慎重に審査した結果、この助成制度の趣旨に合致し、発表内容が優れている2名を採択者とした。

交付認定者： 熊野貴文会員、河本大地会員（会員名簿掲載順）

2016年4月2日 常任理事会

2016年4月9日 理事会(承認)

2016年11月12日 総会

## 第1回 若手研究者国際会議派遣助成の選考結果

2016年3月24日付で若手研究者国際会議派遣助成選考委員会より別紙の通り答申がなされました。この答申にもとづき、下記の通り、本助成の採択者および助成額を決定します。

### 記

採択者名：熊野貴文 会員

発表タイトル：Detached Housing Development in the Osaka Metropolitan Area since the Late 1990s: Focusing on Its Built-up Areas

研究集会名：The 33rd International Geographical Congress, Beijing, China, 21-25 August 2016

助成額：金100,000円

採択者名：河本大地 会員

発表タイトル：Sustainability in a Collaboration between Rural Areas and Universities: From a Viewpoint of ESD (Education for Sustainable Development)

研究集会名：24th Colloquium of the IGU Commission on the Sustainability of Rural Systems, Liège, Belgium, 17-22 July 2016

助成額：金200,000円

※会員名簿掲載順

(以上)

【Ⅱ. 2016年度事業計画】

2016.11.1作成

月	理事会	大会	編集	例会・部会	他学会	前年度
2016年 11月		11-13:京都大	5日			14-15:大阪大 7:編集委 28:政治地理部会 28:常任理事会
12月	10:常任理事会 17:理事会					5:理事会 5:都市圏部会
2017年 1月			7日			9:編集委 30:大会準備委
2月		大会準備委				
3月			4日		28-30:日本地理学会大会	5:編集委 21-23:日本地理学会大会
4月	1:常任理事会 8:理事会			:例会		2:常任理事会 9:理事会 16:例会 23:都市圏研究部会
5月			13日		27-29:経済地理学会大会	14:編集委 7:歴史地理部会 28-30:経済地理学会大会
6月				24-25:特別例会(岡山大学)	17-18:歴史地理学会大会	11:編集委 25-26:特別例会(茨城) 18:政治地理部会 19:地理教育部会 4-6:歴史地理学会大会
7月	1:常任理事会 8:理事会		8日			2:常任理事会 9:理事会 9:編集委 2:歴史地理部会 9:地理思想部会・政治地理部会 共催
8月						5:地理教育部会
9月	16:常任理事会 23:理事会	大会準備委	16日		9/29-10/1日本地理学会大会	17:常任理事会 24:理事会 17:編集委 17:大会準備委 10:歴史地理部会 30-10/2日本地理学会大会
10月	14:常任理事会 21:理事会				経済地理学会地域大会	8:常任理事会 15:理事会 22:歴史地理部会 22-23:経済地理学会地域大会 (奈良)
11月		18-19:明治大	11日			5:編集委 11-13:大会(京都大学)
12月	2:常任理事会 9:理事会					10:常任理事会 17:理事会

一般社団法人人文地理学会 2016年度 予算

<収入の部>

科目	16年度予算
1 会費	¥10,963,000
2 出版物売上	¥1,000,000
3 雑収入	¥1,000,000
4 受取利息	¥2,000
5 未払い費用(算名)	¥805,000
6 大会収入(参加費・広告)	¥12,870,000
7 計	¥29,535,000

一般社団法人人文地理学会 2015年度 決算(案)

2016年10月6日現在

<収入の部>

科目	15年度予算	15年度決算	執行率	差額
1 会費	¥10,486,600	¥13,219,410	126.9%	¥2,732,810
2 出版物売上	¥1,000,000	¥1,051,752	105.2%	¥51,752
3 雑収入	¥885,000	¥1,298,367	150.1%	¥413,367
4 受取利息	¥60,000	¥329,367	548.9%	¥269,367
5 未払い費用(大会収入)	¥805,000	¥869,000	120.4%	¥164,000
6 大会収入	¥2,000	¥3,060	153.0%	¥1,060
7 計	¥12,363,600	¥15,572,589	126.0%	¥3,208,989

<支出の部>

科目	16年度予算
1 職員生産費	¥3,500,000
2 (超過員旅費)	¥450,000
3 雑費	¥500,000
4 経費送金	¥210,000
5 会費	¥1,400,000
6 大会開催費	¥400,000
7 研究会会費	¥2,370,000
8 総務手当	¥300,000
9 保険料	¥10,000
10 役員	¥300,000
11 旅費・交通費	¥250,000
12 通信費	¥70,000
13 顕彰事業費	¥300,000
14 企画・広報事業費	¥100,000
15 会費	¥0
16 選挙費	¥100,000
17 選挙費積立金	¥30,000
18 顕印刷費	¥0
19 名簿作成送金	¥100,000
20 名簿作成送金積立金	¥100,000
21 消耗品	¥200,000
22 機材増上費	¥1,230,000
23 資料(家賃・光熱費)	¥70,000
24 相談手数料	¥100,000
25 寄付金	¥500,000
26 若手研究者国際会議派遣助成	¥70,000
27 相談公費	¥10,000
28 雑費	¥200,000
29 予備費	¥12,870,000
計	¥0

<支出の部>

科目	15年度予算	15年度決算	執行率	差額
1 職員生産費	¥5,000,000	¥4,945,258	98.9%	¥54,742
2 (超過員旅費)	¥0	¥-197,023		¥-197,023
3 雑費	¥500,000	¥407,702	81.5%	¥92,298
4 経費送金	¥620,000	¥788,649	127.2%	¥168,649
5 会費	¥210,000	¥189,607	90.4%	¥20,393
6 大会開催費	¥1,400,000	¥1,275,784	91.1%	¥124,216
7 研究会会費	¥400,000	¥257,898	64.5%	¥142,102
8 総務手当	¥1,600,000	¥2,456,400	153.5%	¥856,400
9 保険料	¥300,000	¥257,225	85.7%	¥42,775
10 役員	¥10,000	¥0	0.0%	¥10,000
11 旅費・交通費	¥880,000	¥255,586	29.0%	¥624,414
12 通信費	¥200,000	¥256,784	128.4%	¥56,784
13 顕彰事業費	¥70,000	¥44,625	63.8%	¥25,375
14 企画・広報事業費	¥100,000	¥0	0.0%	¥100,000
15 会費	¥100,000	¥92,951	93.0%	¥7,049
16 選挙費	¥160,000	¥135,493	84.7%	¥24,507
17 選挙費積立金	¥0	¥0		¥0
18 顕印刷費	¥40,000	¥0	0.0%	¥40,000
19 名簿作成送金	¥400,000	¥400,000	100.0%	¥0
20 名簿作成送金積立金	¥0	¥0		¥0
21 消耗品	¥0	¥10,421		¥10,421
22 機材増上費	¥20,000	¥0	0.0%	¥20,000
23 資料(家賃・光熱費)	¥100,000	¥124,480	124.5%	¥24,480
24 相談手数料	¥120,000	¥221,993	185.0%	¥101,993
25 寄付金	¥1,230,000	¥1,219,951	99.2%	¥10,049
26 若手研究者国際会議派遣助成	¥50,000	¥91,923	183.8%	¥41,923
27 相談公費	¥100,000	¥100,000	100.0%	¥0
28 雑費	¥500,000	¥300,000	60.0%	¥200,000
29 予備費	¥80,000	¥85,727	107.2%	¥5,727
30 雑費	¥10,000	¥60	6.0%	¥50
31 計	¥14,010,000	¥13,432,534	95.9%	¥577,466
収支差額	¥-1,646,400	¥2,140,055		¥2,631,523



## 貸借対照表

平成 28年 9月 30日 現在

一般社団法人 人文地理学会

資 産 の 部		負 債 ・ 純 資 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>【流動資産】</b>		<b>【流動負債】</b>	
現金及び預金	26,095,157	預り金	11,590
会 誌	520,023		
仮 払 金	800,000		
未 収 入 金	252,886	流動負債合計	11,590
流動資産合計	27,668,066	負債の部合計	11,590
<b>【固定資産】</b>		<b>純 資 産 の 部</b>	
投資その他の資産		基 金	0
保 証 金	1,400,000	一般正味財産	29,056,476
その他固定資産合計	1,400,000		
固定資産合計	1,400,000	純資産の部合計	29,056,476
資産合計	29,068,066	負債及び純資産合計	29,068,066

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

①計算書類の作成基準

一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成している。

②資産の評価基準及び評価方法

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

会誌：最終仕入原価法による原価法

## 損 益 計 算 書

自平成27年10月1日 至平成28年9月30日

一般社団法人 人文地理学会

科 目	金 額	
(経常損益の部)		
【経常収益】		
受取会費	13,219,410	
事業収入	1,051,752	
受取負担金	969,000	
財務収益	3,060	
その他収益	329,367	
経常収益計		15,572,589
【経常費用】		
(事業費)		
期首会誌棚卸額	323,000	
会誌生産費	4,945,258	
期末会誌棚卸額	▲ 520,023	
大会開催費	1,275,784	
顕彰事業費	44,625	
若手研究者国際会議派遣助成事業費	300,000	
事業費計		6,368,644
(管理費)		
給 料 手 当	2,456,400	
保 険 料	257,225	
集 会 費	189,807	
編 集 費	407,702	
研究部会運営費	257,898	
役 務 費	0	
旅費交通費	255,586	
通 信 費	256,784	
雑誌発送費	788,649	
会 合 費	92,951	
選 挙 費	135,493	
諸 印刷費	0	
名簿作成発送費	0	
備 品 費	10,421	
消耗品 費	124,480	
賃 借 料	221,993	
地代 家賃	1,219,951	
租税 公課	85,727	
相談手数料	91,923	
寄 付 金	100,000	
雑 費	600	
予 備 費	110,300	
管理費計		7,063,890
経常費用計		13,432,534
経常利益		2,140,055
当期純利益		2,140,055

2016年～2017年度 人文地理学会監事候補者（2名）

金坂 清則  
山田 誠

2016年～2017年度 人文地理学会理事候補者（20名）

秋山 道雄  
石川 義孝 ※代表理事（会長）  
伊東 理  
内田 忠賢  
岡本 耕平  
香川 貴志  
小島 泰雄  
米家 泰作  
佐藤 廉也  
島津 俊之  
祖田 亮次  
田和 正孝  
中谷 友樹  
野間 晴雄  
福田 珠己  
三木 理史  
水野 一晴  
矢野 桂司  
山村 亜希  
吉田 容子

※2016年7月9日の理事会において、福田珠己選挙管理委員会委員長より報告され、承認。